

令和7年度学校経営計画 学校評価書 (最終評価)

A: 基準を大きく上回っている B: ほぼ基準どおりである
C: 基準に達していない、あるいは課題達成に向け大きな課題がある

岡山県立岡山城東高等学校

| 学校経営計画 ミッション追求のための取組 及び 重点的取組 | 分掌名 | 具体的な方策 | 目標とする状態・達成基準 | 達成状況(中間) | 中間評価 | 達成状況(最終) | 最終評価 | 結果分析及び改善策 |
|--|--------|---|--|--|------|---|------|--|
| <p>ミッション追求のための取組 生徒とともに</p> <p>【1年次「基盤づくりと学類選択」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立と主体的に学ぶ態度の育成 ・ 互いを尊重する人間関係の構築、多様な体験による自己の理解と発見、自己実現に向けた学類選択への支援 <p>【2年次「活動の充実と進路選択」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学類を特色付ける教育活動や発信の充実を通じた、高度な知識・技能を活用するための高い思考力、判断力、表現力の育成 ・ 探究的な学びや学校行事を通して協力し助け合う人間関係の構築、キャリア形成と進路選択への支援 <p>【3年次「自己実現」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びを自らの意思と意欲で深化させていく資質や能力、態度の涵養 ・ 自己実現に向け、互いに支え高め合う人間関係の構築と、卒業後の人生設計を踏まえた進路決定への支援 | 1年次団 | 「チーム城東39」として高め合える生徒、生徒教員間のよりよい人間関係を創り、自己を高める学びとその他の活動のリズムをつくって、学類選択を適切に行い、自分の進路の道筋を創る。 | 様々なことに積極的に取り組みながら、安全に気を生徒が配ることができる。 3点固定で予習・復習・課題に取り組むリズムが生徒に概ね確立している。 学類選択など生徒が生徒同士でも教員にも相談できる気風が醸成できている。 | 現在、具体的な方策を総合的な探究の時間、LHR、面談などを通じて、生徒とともに実践しているところであり、概ね計画通り有機的に実施できている。 | B | 概ね安全・安心に気を配りながら生活している。学習のリズムを概ね確立できている。学類選択に際して生徒どうし、教員、家族と相談し概ね納得のいく選択ができている。 | B | 交通事故、防犯意識の向上には課題がある。精神的に疲れている生徒も散見され、学校行事、部活動とのバランスが課題である。 |
| | 2年次団 | 学校の中心年次として、学校行事、部活動等で生徒同士が協働して取り組み、自主的・自律的に行動できるよう支援する。また諸活動を通じて自らの適性を知り、よりよい進路目標が設定できるよう支援する | 積極的に挑戦する姿勢をお互いに尊重しながら、支え高め合う人間関係が構築できる。年次目標の『文武両道』『凡事徹底』を実践できる。 | 翠緑祭やオープンスクールの準備、また部活動などにおいて、中心年次としての自覚を持ち、生徒同士で協働し、取り組むことができている。また、諸活動を通じて、自らの進路について考えようとしている。 | B | 学校行事や部活動、委員会活動等で中心年次としての自覚を持ち、それぞれの活動の在り方を模索しつつ、協働的自律的に取り組み、成果を上げることができた。 | A | 諸活動で中心となる生徒が目標高く自主的に取り組める一方、集団としての取り組みとフォローアップのさらなる涵養が求められる。 |
| | 3年次団 | 最終年次として、部活動や学校行事など全てにおいて全力でやり切れ、面談や年次集会だけでなく日々の指導や声かけを通して、受験への切り替えについて支援する。 | 生徒一人一人が自らやるべきことを判断し、全力で取り組んでいる。また、生徒同士が互いに認め、高め合う集団になっている。 | 多くの生徒が最後まで部活動をやり切り、受験へと意識が大きく切り替わっている。また部活動がある生徒についても、周りと協働しながら高め合っている。 | B | 最終年次として、部活動、学校行事等を全力でやり切った後、受験に向けて意識を切り替え、自らが進むべき道を目指して学習に取り組み、成果を上げることができた。 | B | 志や目標を高く持ち続けさせるためにさまざまな取り組みを粘り強く行ってきた一定の成果は出ているが、さらなる工夫が求められる。 |
| | 進路指導課 | キャリアカウンセリングとしての面談に加え、大学説明会の開催や学習支援、土曜講座などのさらなる充実を図り、主体的な学びを後押しし、主体的で多様な進路選択、およびその実現を支援する。 | 大学説明会や学習支援について、継続的な実施と内容の充実がなされ、多くの生徒が積極的に参加している。 学校自己評価4「城東高校は、自分の進路選択に向けて、面談や講習会などを通じてきめ細かな指導を行っている」の評価を保持する。 | 大学説明会については、1学期で4回実施。うち、卒業生によるものも2回実施している。今後とも積極的に進めていきたい。学習支援については、のべ250名を超える生徒が受講し、好評だった。 | B | 大学説明会は7回実施。うち、卒業生によるものが5回であった。昨年同様、芸術関係も実施できた。昨年度とは異なる大学もあり教員の参加も増えつつある。また、校内案内板の掲示やブログへのアップなどを通じて、生徒・保護者にも取組の様子が伝わるように配慮した。 | B | 概ね定着してきたが、日程的にも6月～9月に集中するため、今後は組織的に取り組める体制作りが課題である。教員の負担にも配慮しつつすすめていきたい。学校自己評価4「城東高校は、自分の進路選択に向けて、面談や講習会などを通じてきめ細かな指導を行っている」の評価は保持できた。 |
| | 国際課 | 異文化体験研修カナダコース、FLAT in OSAKA、海外修学研修、交流会、講演会等の活動の充実を図る。 | 1年次生が異文化体験研修カナダコースに30名程度、FLAT in OSAKAに20名程度、2年次生が海外修学研修に20名程度参加する。 | 異文化体験研修カナダコースに40名、FLAT in OSAKAに24名を派遣予定である。今後、中国訪問団との交流会、スタンフォード大学院生との交流会を実施予定である。今後も様々な体験型の学びを企画し、生徒の国際的な視野を育てていく。 | B | 異文化体験研修及び、FLAT in Osaka どちらも目標数以上の生徒が参加した。また3月実施の海外修学研修も25名が参加予定である。中国訪問団やスタンフォード大学院生との交流会いずれも、生徒の国際理解を深める良い機会となった。 | A | どの活動においても、参加生徒は充実した時間を過ごし国際的視野を広げ、異文化理解や語学学習への動機を高めることができた。来年度に向けて、さらに各研修内容の充実を図り、生徒のより深い学びや将来の進路に繋がる学びが達成できるよう計画したい。 |
| | GLOBAL | 「総合的な探究の時間・学校設定科目」における地域密着の課題研究の取組を充実させ、課題解決能力や、他者と協働する力を育成する。 | 学校自己評価アンケートの質問項目「城東高校は、他者と協力してさまざまな課題を解決する力がつく学校である」の生徒平均値が例年と同じ水準を維持する。 | 必要に応じて各年次GLOBAL係で会議をもち情報共有をすることで、縦横の連携をとりながらの適切な運営がなされている。 講演会や企業訪問等の事前学習・事後学習(振り返り)において、昨年と同様に充実した取組がなされている。 | B | 1年次企業訪問や国際交流の活動内容の拡大・充実を努めた。 学校自己評価アンケートの質問項目「城東高校は、他者と協力してさまざまな課題を解決する力がつく学校である」の生徒・保護者・教員ともに平均値は昨年度とほぼ同じであった。他のグローバルに関する質問項目も例年並みで、種々の取組成果が生徒や保護者に届いたと判断できる。 | B | 本校代表として参加する各種発表会は、年度当初に係で共有をしていたため、代表グループの選出は問題なく行えた。今後も、生徒が主体的に応募したいものについては、適宜検討するが、学校代表として参加するものは、今年度並みで調整したい。 |
| | 生徒課 | 翠緑祭(文化の部・体育の部)を成功させる。また、行事のブラッシュアップを図り、持続可能な行事となるようにマニュアル・資料を作成する。 | 生徒が生徒会行事へ主体的に参画し、安全に運営できる。学校自己評価の「学校行事は、生徒が中心となって取り組んでおり、充実したものとなっている」の±0.2ポイントを維持できる。 | 生徒会執行部と翠緑祭実行委員会に携わる生徒の人数が75名となり、新たな取り組みやイベントに参画し、準備を進めることができている。 | B | 学校自己評価の「学校行事は、生徒が中心となって取り組んでおり、充実したものとなっている」の評価が生徒の平均値が4.8と、高い数値を維持している。 | A | 生徒会行事以外にも、リーダー研修会など生徒が主体的になる場の設定ができた。これにより生徒自身が学校行事や学校生活を考え作り上げているという実感が味わえたと考える。今後も生徒が主役、教員が支援するというバランスを維持したい。 |
| <p>ミッション追求のための取組 保護者とともに</p> <p>共に生徒を育てるよきパートナーであり続けるために、対話・情報共有を積極的に行う。 ⇒保護者懇談・三者懇談の充実、公開授業・学校行事の開放等の開かれた学校づくり等</p> | 1年次団 | 相談課、保健室、医療機関等との連携を密にして、生徒・保護者の理解に努め、悩みを抱えた生徒を支援するため、保護者との連絡を早期にとる。 | 悩みを抱えた生徒に対する必要な支援のため、様々な観点で兆候をつかんだ場合早期に連絡を取る。 | 年次団内をはじめ、相談課、保健室と連携し、悩みを抱えた生徒に積極的にカウンセリングを紹介したり、教員による面談を行っている。個々の生徒に応じて三者懇談を早めるなど機動的に対応している。 | B | 生徒が概ね安全・安心に気を配ることができるような連携をとれた。 学習リズムを生徒が確立する連携がとれた。 生徒の学類選択に際して、概ね納得のいく選択ができる連携をとることができた。 | B | 交通事故、防犯意識の向上等連携する必要がある。精神的に疲れている生徒も散見され、学校行事、部活動とのバランス等保護者と連携する必要がある。 |
| | 2年次団 | 学校の中心年次として、学校行事や部活動に取り組む生徒の活躍や、学類研修の様子などを時計台や城東ブログなどで発信する。年2回の保護者懇談や保護者会で生徒の様子を伝え、家庭での様子を聞く。 | 生徒の活動を保護者とともに支えていることが実感でき、学校自己評価アンケート等の結果に反映されている。 | 学類研修の様子を日々保護者に届けることが出来た。また、事後にも時計台や城東ブログなどで発信することができた。各クラス担任が生徒と程良い距離を保ちながら接しており、気になる生徒の保護者とは連絡を取り合っている。 | B | 普段の学校生活の中で、様々な悩みを抱えた生徒や保護者に対して、担任、相談課、保健室と連携を取ることができている。また、保護者面談等を通して、担任と保護者が個々の生徒の学校生活や家庭での様子について共有している。 | B | 担任と保護者が生徒の活動を支えていることが出来ているが、生徒がさらに高い志や目標を持てるよう、保護者と共有していきたい。 |
| | 3年次団 | 時計台、Classi等で、進路に関する情報を丁寧に発信するとともに、保護者懇談等で悩みや課題を共有しながら、協働して生徒のキャリア実現を支える。 | 保護者と学校とが協働して生徒のキャリア育成を支えていることが、学校自己評価アンケート等の結果に反映されている。 | 生徒面談を通して生徒の進路希望を担任が把握し、保護者懇談を通じて保護者との共有を図れている。また、時計台を通じて生徒への助言などを適切に行っている。 | B | 進路や学校生活に悩みを抱えた生徒や保護者に対して、担任、相談課、保健室と連携を取ることができている。長期欠席の生徒も少数いるがクラス担任の声かけで、来るようになった生徒もいる。 | B | 三者面談を通じて生徒との進路や日常生活について情報交換が出来た。また、個別に相談がある保護者にも担任が中心となって対応が出来た。保護者と生徒との間で進路希望の違いが見られることもあり、その調整に苦労したところもあった。 |
| | 教務課 | 6月と10月に保護者対象の授業公開を実施し、学校の実態について理解を深めるとともに、教員が取組について改善を図る契機となるようアンケート結果を全教員に共有する。 | 保護者が城東高校の授業に理解を示し、自らの声が学校に届いていることを実感できている。 | 6月の授業公開は昨年度より2週間日程を早めて実施した。昨年度1回目の人数をわずかに超える220人の保護者に来校いただいた。アンケートの結果も肯定的な意見が多かった。 | B | 10月の授業公開においても、昨年度より多く保護者に参加いただいた。2回の参加者数の合計は390人であった。具体的なクラスや授業名を取り上げて、感想を寄せてくださる保護者もあり、今年度も盛況であった。 | A | 1回目と2回目で曜日異なる方が、いろいろな授業を見られてありがたいという意見があった。日時の設定の参考にしたい。 |
| | 生徒課 | 生徒会活動や部活動の情報を月に3回以上は発信する。文化広報委員会など生徒会が中心となって情報を校内掲示する。 | 城東ブログ、翠緑祭実行委員会インスタグラム、HP、校内掲示を通して生徒会活動の情報を保護者と共有できる。保護者から理解と協力を得て支援された結果が学校自己評価アンケートに反映されている。 | 生徒会行事や生徒の活動に係る情報の共有・発信と文化広報委員会を中心に校内におけるアナウンスが着々と進められている。掲示の方法にも工夫が加えられている。 | B | 保護者からの理解と支援をいただいた結果が、学校自己評価アンケートに反映されている。それらに関連する4つ項目の評価が0.1ポイントずつ上昇した。 | B | 昨年度よりは広報活動を充実することはできたが、学校の生徒会活動全般を網羅するにはまだ発信力が足りないと感じられた。来年度は、生徒からの発信できる場を増やし、柔軟に対応しながらタイムリーな情報を発信したい。 |

| | | | | | | | |
|--|----------------------|--|--|--|----------|---|----------|
| <p>ミッション追求のための取組 地域とともに</p> <p>本校の教育を広く発信して本校教育への理解を促し、支援者・実践者を増やすことで協働して生徒を育てる。 ⇒学校運営協議会を中心とした、外部機関との連携や地域とのつながりを深める活動の推進 等</p> | <p>総務課</p> | <p>オープンスクールや学校説明会、本校 HP において、生徒が主体となって活動する様子を積極的に発信する。 特にオープンスクールにおいては、学校の様子を生徒自らが発信することで、生徒の自主的自律的行動力も育成する。</p> | <p>在校生の活躍を中学生・保護者が好意的に受け止め、「求める生徒像」を理解した上で本校を志願している。 自主的・自律的行動力の高まりが、学校自己評価アンケート等に反映されている。</p> | <p>オープンスクールについては、生徒課と連携し、生徒会生徒の主体性を尊重しながら企画運営を進めている。 地域等に向けた学校広報においては、ブログのレイアウトを工夫することで、他校との差別化を図るなどの新たな提案が担当から出るなど、能動的な改善が見られている。</p> | <p>A</p> | <p>オープンスクールは、昨年度を上回る来場者数があり、アンケートの記述においても生徒の運営力を評価する声が多数あるなど、本校の魅力を最大限伝えることができたと思う。次年度の志願者数も昨年度より増加しており、高い成果があったと言える。 ブログ更新も、起案を簡略化することでよりスピード感をもって発信できた。</p> | <p>A</p> |
| <p>ミッション追求のための取組 教職員として</p> <p>すべての教職員が安心して生き生きと働けるような環境を共につくりあげる。 ⇒学校の実情に即した実践的校内研修の充実、協働的な職場づくり 等</p> | <p>管理職</p> | <p>朝礼、職員会議、研修等の場を活用し、ハラスメントや不祥事案について積極的に取り上げ、教職員間で話題を広げる。これにより、問題意識を共有し、相互理解を深めるとともに、実践的な対策を講じる機会を増やす。</p> | <p>不祥事防止に向けた改善提案やアイデアが共有され、教職員全体の意識が高まる。さらに、ストレスチェックの調査結果において、「仕事の負担」や「心身の健康度」等の項目で、全国平均を上回る数値を達成する。</p> | <p>全教職員に教育動画研修を実施し、ハラスメントや不祥事への理解を深めた上で、職員朝礼等でも事案や話題を共有し、問題意識の醸成と対策の促進を図った。また、ストレスチェック調査の結果は、学校に届き次第、教職員間で共有する。</p> | <p>B</p> | <p>不審物点検業務は、急に舞い込んだ対応であったものの、職員が連携して、校内の状況に即した適切かつ確実な調査を行った。ストレスチェック調査の結果では、「仕事の負担」や「心身の健康度」等の項目で、いずれも全国平均を 0.1 以上下回った。</p> | <p>B</p> |
| <p>重点的取組</p> <p>(1) ICT 活用も含めた組織的な授業研究に取り組み、主体的学習者としての「10 の資質・能力」を学校として総合的に育成する。</p> | <p>J L P</p> | <p>学校運営協議会での「10 の資質・能力」の検討をもとに、本校の授業や OJT などの研修会等の在り方を検討し、育成すべき資質・能力の伸長に資する授業の推進を支援する。</p> | <p>教科ごとの研修会や全体での研修を実施し、育成すべき資質・能力や、その基盤となる学習評価方法などを共有できる。</p> | <p>「10 の資質・能力」を育成する基盤となる学習評価法の確立に向けて、授業評価アンケートや自己評価アンケートなどを分析する予定である。また、次回の学校運営協議会に向けて、若手教員により学校分析を行うとともに、教職員に分析結果を発表し、意見具申を行う予定である。</p> | <p>B</p> | <p>11 月から 12 月にかけて実施された、生徒による「授業評価アンケート」、また、12 月に実施された、生徒による「10 の資質能力自己評価アンケート」からは、授業を通して「10 の資質・能力」の育成されていることが確認できる。しかし、基礎学力の項目の数値は低調であった。</p> | <p>B</p> |
| <p>重点的取組</p> <p>(2) 多様な生徒のキャリア upgrade を図り、キャリアカウンセリングやニーズに応じた種々の活動を充実させ、主体的なキャリア形成に資する。</p> | <p>相談課 進路指導課</p> | <p>現在の教育相談体制の維持・充実を図るとともに、様々な機会を捉えて教育相談的な発想を浸透させ、主体的なキャリア形成の伸長に寄与する。</p> | <p>校外のカウンセラー、相談機関との連携を維持・発展させる。 進路面談に教育相談的発想を生かし、自立の精神を涵養させる。</p> | <p>カウンセラー、校医、S S W との連携はよく取れている。担任・保健室との意思疎通も図れており、早めの対応が行えている。</p> | <p>B</p> | <p>生徒の自己評価は 4.1 と維持されている。これは、日常の先生方の対応が通じていることの表れであろう。保護者への浸透も引き続き進めていきたい。</p> | <p>B</p> |
| <p>重点的取組</p> <p>(3) 地域と協働して生徒を育てる体制をより充実させるとともに、生徒が主体的に地域の活動等に参画しようとする意欲を高めるよう支援する。</p> | <p>図書文化課 生徒課</p> | <p>図書館の備える機能の周知を図るとともに、授業・探究学習を通じての書籍や資料による深い検証や情操の涵養、進路研究等に寄与できるよう努める。 校外での委員会活動を主体的に行い、図書館利用の推進を図る。</p> | <p>一般的な読書活動のみならず、授業や探究学習・進路研究等において生徒が図書館の機能をうまく活用し、内面の深化を実現できる。 読書を通じた交流を通して、本と人、人と人がつながり、高い知性や豊かな情操を育むことができる。</p> | <p>授業や探究活動での利用はもとより、図書委員会での他校との協働制作や保護者向けの貸し出しを新たに実施している。進路に役立つ書籍の展示、インスタでの新書紹介、企画展示、図書館イベント等も継続して行っている。</p> | <p>A</p> | <p>授業での書籍活用も多し、探究活動でもポータルサイトを利用いただいた。企画展示や図書日より、インスタグラムの充実に加え、他校と連携しての POP 立て作成、日経新聞電子版の導入、校誌城東改訂や城東おつかい便の提案など、委員会の活性化とともに、生徒・地域の読書の喚起に努めた。</p> | <p>A</p> |
| | | | | <p>ボランティア活動の準備が進められ、7 月より本格的に活動できる予定である。</p> | <p>B</p> | <p>台風や降雨の関係で、予定していた活動が一部できなかった。一方で複数活動の場を用意していたので、活動の機会を担保することはできた。</p> | <p>B</p> |